

DIAMOND online 2020/12/30 記事

「ワクチン接種で新型コロナは本当に終息するか、  
課題は「4つの未知」

久住英二(医師)の記事から抜粋

話題となったワクチンの「有効性」は「発症予防効果」のことで、「感染予防」は、また別の話。感染症に対するワクチンの「有効性」は、「感染しないか」ではなく「発症しないか」で判断する。

ワクチンの接種者と非接種者の発症率を比較して、「接種によって発症者がどれくらい減ったか」で示される(厳密には「有効率」だが、通常はワクチンの「有効性」として扱われる)。ピンと来ないと思うので、具体的に数字で考えてみる。

4万人の臨床試験で、ワクチン接種者と非接種者がそれぞれ2万人だった時に、接種者から10人発症し、非接種者は200人発症したとする。発症率は接種者0.05%、非接種者1%だ。ワクチンによって発症率が95%下がっている。これが「95%の有効性」だ。なるほど、と済ませてはいけない。

数字を細かく見ると分かるが、「非接種ながら発症しなかった人」が1万9800人いる。他方、「接種して発症していない」1万9990人も、ワクチンが発症を防いでくれているのかどうか、厳密には不明だ。

つまり、ごくごく一部の方々の発病の有無をもって、しかも「臨床試験の全被験者が均等に感染リスクに曝されている」との前提(あくまで仮定)に立って、ワクチンの有効性を示しているに過ぎない。(中略)

接種によって獲得した抗体価(感染防御に必要な中和抗体の血中レベル)がどのくらいの期間保たれるのかは、分かっていない。ワクチン接種後に抗体価の観察を続け、どの時期からワクチン接種後の発病が増えるか、見極めていかねばならない。

(転載ここまで)

ワクチンにあまり期待すべきではないだろう。加えて以下のようにいくつも変異株が出現して、それらに効くかわからない。

## 変異株の出現とワクチンの効果

アストラゼネカのワクチンは南アフリカ変異株への効果が確認できず

南アフリカ国内で感染が広がっている変異株に対して、英アストラゼネカ社のワクチンの予防効果が低いとする南アフリカのウィットウォーターズランド大学と英オックスフォード大学の研究結果を2月7日、英フィナンシャル・タイムズが報じた。

南アフリカ変異株に対するアストラゼネカ製ワクチンの効果について、軽度から中程度の症状を予防する効果は「最小限」にとどまるとする初期段階の臨床試験結果を研究チームが2月7日に発表した。

発表によると、臨床試験はボランティアの被験者約2000人(平均年齢31歳)を対象に実施され、約半数にワクチンを、残り半数にはプラセボ(偽薬)を投与した。その結果、南アフリカの変異株に対するウイルス中和効果は、変異前のウイルスに対する効果に比べて「大幅に減退」することが分かった。重症の症例や入院、死亡に対する予防効果は検証されていない。

2月8日付けCNNによると、この結果を受けて南アフリカの保健当局は2月7日、アストラゼネカの入手済のワクチン100万回分を接種開始直前に見合わせると発表した。

同社のワクチンは日本政府も大量(1億2000万回分)購入の契約済みだが、日本政府はどうするのか？

## 英国の変異株がさらに変異

[ロンドン 2月2日 ロイター]

英保健当局は2日、国内でこれまでに検出された新型コロナウイルスの変異種がさらに変異したと明らかにした。

新たな変異で南アフリカとブラジルの変異種に似た性質を持つようになっており、ワクチンの有効性が低下する恐れがあるとしている。

## 特例承認のファイザーのワクチンについて

厚生省はファイザーとの間で2021年1月20日、

ワクチン約1億4400万回分を日本に提供するとの最終合意書を締結。共同通信2月8日によると、国の医薬品審査を担う医薬品医療機器総合機構(PMDA)がファイザーワクチンについて審査手続きを簡略化した『特例承認』を認める審査報告書をまとめた。

2月17日接種開始という。準備が整えば同意が得られた医療従事者約1万人に先行接種する。

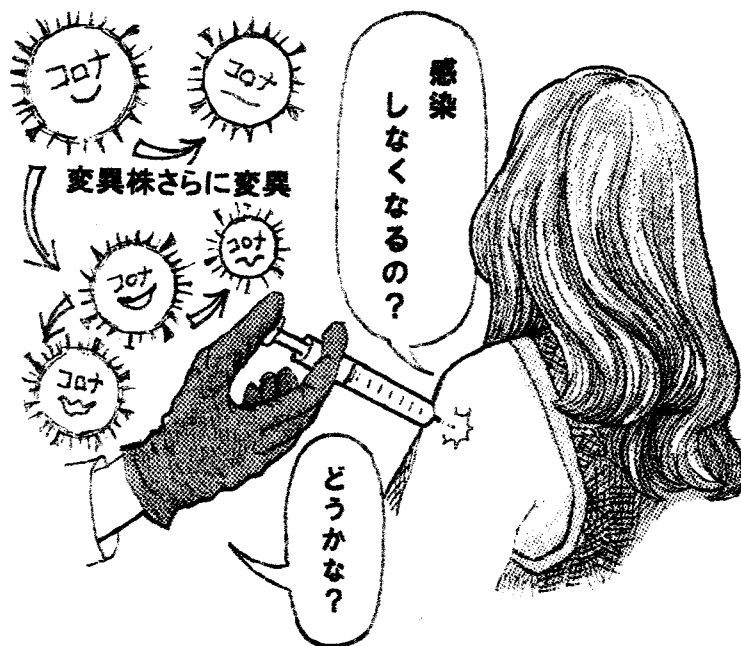
さて、ファイザーは自社の試験で南アの変異種に対しワクチンの有効性は少し失われるだけと発表(研究データの査読審査は未)。日本政府はこの希望的観測に乗っかり、ワクチンスケジュールを進めている。しかし、南ア変異種に留まらず、英変異種、ブラジル変異種、そしてそれらが交差したり

しながらさらに変異を続けている。

変異株に対し、ワクチンの有効性は低下することが懸念され、世界中でワクチンの有効性が検証中だ。日本ではいずれの変異株についても感染者が表れており、市中に広がっている可能性は否定できない。

ウイルスは変異を続けるからワクチンで抑え込めるとするのは幻想だ。

生物はずっとウイルスと共生し、有害なウイルスに対しては免疫力で対抗してきた。免疫力が低下していれば通常のインフルエンザでも死ぬのだ。食養生をし、免疫力をつける生活こそが最大の防御と心得たいものです。(安田)



## 鳥インフル

## 鳥インフルと大規模過密養鶏を問う

鳥インフルエンザが蔓延している。2月10日現在までに殺処分羽数は過去最高の1000万羽に迫り、なおも増え続け、鶏卵がひっ迫する懸念まで出始めている。この膨大な数は全国の養鶏場が大規模化したことが要因だ。1羽でも感染が見つかれば鶏舎の全部が殺処分となる。その鶏舎の大半が数十万羽、百万羽といった大規模工場養鶏なのだ。

日本の養鶏業は政府の規模拡大の方針のもとに大規模化が進んだ。農水省の畜産統計(2018年調査)によると、10万羽以上飼養が全体の75.2%

を占める。

持続可能な地球環境を目指す国連のSDGsは各国の目標とされ国際的に取り組みが進められている。そのひとつがアニマルウェルフェア(動物福祉 AWと略)だ。

AWとは国際的には家畜動物について(1)飢えおよび乾き、(2)不快、(3)苦痛、損傷、疾病、(4)恐怖および苦悩からの自由、および(5)正常行動の発現の自由が提唱されている。